

若浜の子ども



令和2年5月28日 第5号

学校生活の再スタート



緊急事態宣言が解除され、メディアが新型コロナウイルス一色から、通常の報道に戻りつつあります。しかし、学校生活に復帰した子どもたちの様子は、もどることはまだ難しいようです。

5月26日（火）に「子どもの生活安全推進委員会」が開催されました。その席上、安全推進委員の方から、「朝の挨拶の音が小さいのは、新型コロナ対策として、そのように指導しているからですか。」と質問されました。臨時休業中の登校日にも、安全サポーターさんから子どもたちの挨拶の音が小さくて寂しいとの声がありました。学校再開後の教室での子どもの発言も、担任が近づいて、話していることを確認しなければならない場面が見受けられます。2か月半にわたる臨時休業の痛手はこんなところにも表れています。

自分の力を試したり発揮したりする場面が、次々と制限されている現状。さらに、これから夏になって気温が上がればエアコンの生活。新型コロナウイルス対応による経済的な打撃が問題になっていますが、これからの社会を作っていく子どもたちの教育も大いに問題です。

様々な制約がある中でも縮み志向ではなく、何かに挑戦したり、自分の良さをさらに伸ばそうとしたりするファイト。これらとともに学力の回復があるものと考えています。

<若っ子美文字コンテスト>運動の競い合いが難しいなら、ペンシルで競い合い

今年度若浜小学校では、手書き文字の向上をめざしています。そのきっかけとして「若っ子美文字コンテスト」を行います。1学期に硬筆、3学期に毛筆で行います。特に硬筆は、正しい鉛筆の持ち方も日常の授業中にチェックします。高学年の中には、やる前から「自分は字が汚いからだめだー。」と白旗を上げている子もいましたが、どこまで上達するか挑戦しましょう。賞は、金賞（文字に対する賞）と校長賞（向上、努力に対する賞）を用意しています。副賞は高級書き方鉛筆。

本番は7月です。まず鉛筆の持ち方から確かめてみてください。



緊急事態宣言が解除されてどうなった？

6年生の児童数名に緊急事態宣言の解除について聞いてみました。

- テレビを見ていると前より人が増えている。
- みんな終わったと思って外に出ている人が多い。
- 楽になったが、自粛しないとまた感染する。
- 世の中が騒いでいる。
- 解除されて自粛をやめて、密になっているところに出かけている。
- 新しい生活様式のもとで、経済活動を再開している。
- 終わったと思って、外に出ている人が多くなり、第2波が来て感染者が増えて大変になってしまうので気をつけたい。
- 安心して外に出ることが多くなった。
- マスクを忘れることが多くなった。
- 緊急事態宣言を解除すると第2波が来ると思うので解除したのは間違いだと思う。

さすが6年生。自分の頭で考えています。「油断せず、恐れすぎず」リスクと向き合う姿勢が大切ですね。6月になると気温も高くなるので、今度は熱中症への注意が必要です。その対応として6月1日からは以下のように基本対応を変えます。(条件によってはマスクの着用もあり。)

- 外での体育や遊ぶときは、マスクを外す。ただし、ソーシャルディスタンスは意識して。
- 体育館での体育や遊ぶときはマスクを外す。窓はすべて開放する。
- 水筒の中身は、水に限らず、スポーツドリンクやお茶など水分を取りやすいものを持ってきてください。

生きている限り、私たちは毎日何らかのリスクにさらされています。大事なことはどんなリスクがあり、そのリスクが高まるのは、いつ、どこで、どんな行動をとった時なのかというシナリオを思い描く想像力です。子どもたちには、そんなシナリオを自分の頭で考える力を付けていきたいものです。

若浜小職員のIT進み具合

臨時休業中の若浜小のHPの動画をご覧いただければわかる通り、若浜小の教職員には、演技とITに強い先生が数多くいます。演技はともかく、職員会議は、昨年度末からペーパーレスです。会議資料の印刷やとじ込みの手間がなくなりました。会議中の提案は「〇〇のファイルを開いてください。…」といった具合です。原案から修正された場合は即修正。会議の風景と校舎の古さのミスマッチングが何とも言えません。

第2番目は音楽の授業。今年度からの教科書は、インターネットに接続して作曲者の動画を見たり、PCを使って音楽鑑賞したり、節づくりをPCで行ったり。ですから黒板前の一番いい場所にPCが陣取っています。



<職員会議の様子>



<音楽の校内研修の様子>